

# 2017年度 事業報告

〔 2017年 4月 1日から  
2018年 3月 31日まで 〕



学校法人立教女学院

はじめに

## 2017 年度事業報告にあたって

立教女学院は、2017 年 9 月 1 日に、創立 140 周年を迎えました。キリスト教に基づき、女子を対象とした教育・研究活動を、杉並区久我山のキャンパスにある小学校、中学校、高等学校、短期大学、短期大学附属幼稚園天使園の各校で展開しております。

少子化や社会経済状況等の影響により私立学校を取り巻く環境が一層厳しさを増すなか、短期大学及び附属幼稚園天使園の 2018 年度からの学生・園児募集停止を決定しており、2017 年度は学生・園児の受入れの最後の年となりました。在校生に対しては卒業まで、従来通りの教育内容の質の維持、支援体制の充実を最優先課題としております。そのような中、多くの関係者の皆さま、保護者、卒業生のお力添え、教職員の努力によって 2017 年度の事業を進めてまいりました。

ここに、2017 年度の事業報告書を作成いたしました。各学校での特色ある教育活動や立教女学院の諸活動のあらましについて本書を通じてお伝えすることで、当学院に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

歴史と伝統の上に立ち、将来を見据え、教育活動を進めていく立教女学院に対して、皆さまのさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

学校法人 立教女学院

### 《目次》

I. 法人の概要.....	2
II. 事業の概要.....	6
i. 短期大学.....	6
ii. 中学校・高等学校.....	9
iii. 小学校.....	12
iv. 天使園.....	15
v. 学院.....	17
III. 財務の概要.....	18

## 1. 法人の概要

### 1. 設立目的

本学院は、学校教育を通じて、キリスト教の福音を伝えるという目的の下に、1877年に米国聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって日本における女子教育の先駆的な事業として創設された。やがて、本学院は立教女学校、立教高等女学院の時代を経て、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学として一貫教育の組織を完備してきた。ここに年を重ねること140年、キリスト教を基盤とする女子教育に足跡を残してきたのであるが、キリスト教教育こそは創設者の理想であり、また今日も他の目標に優先する本学院の教育目的である。

### 2. 沿革

1877年9月1日	立教女学校開校
1908年4月1日	立教高等女学校と改称
1931年4月1日	附属尋常小学校設置
1947年4月1日	高等女学校が中学校、高等学校となり、小・中・高12年間の一貫教育体制確立
1963年4月1日	高等学校に専攻科併設
1967年4月1日	短期大学設立・英語科設置
1970年4月1日	短期大学に幼児教育科設置
1972年4月1日	短期大学に専攻科設置
2008年4月1日	短期大学附属幼稚園天使園設置
2013年4月1日	短期大学に現代コミュニケーション学科設置

### 3. 設置する学校・学科及び入学定員、学生数の状況

学校	入学定員	収容定員	在籍者数	入学者数	卒業者数
			2017/5/1	2017/5/1	2018/3/31
立教女学院短期大学附属幼稚園天使園	20	40	40	20	20
立教女学院小学校	72	432	431	72	73
立教女学院中学校	180	540	593	201	197
立教女学院高等学校	180	540	555	186	182
立教女学院短期大学	450	750	693	311	390
現代コミュニケーション学科	150	300	296	120	146
幼児教育科	150	300	263	97	152
専攻科幼児教育専攻	150	150	134	94	92
合 計	902	2,302	2,312	790	862

### 4. 勤務員数

(2017年5月1日現在)

	教 員		職 員		校務職員		計		合 計
	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務	
幼稚園	4	1	0	0	0	0	4	1	5
小学校	23	11	3	3	0	0	26	14	40
中学校	28	15	2	1	0	0	30	16	46
高等学校	29	14	3	3	0	0	32	17	49
短期大学	28	76	11	5	0	0	39	81	120
現代コミュニケーション学科	15	29	7	3	0	0	22	32	54
幼児教育科	13	47	4	2	0	0	17	49	66
法人事務局	0	0	13	2	0	0	13	2	15
合 計	112	117	32	14	0	0	144	131	275

(臨時職員・派遣職員等を除く)

## 5. 学校長

学校	学校の長	就任日
立教女学院短期大学附属幼稚園天使園	斎藤 英樹	2017年4月1日
立教女学院小学校	佐野 新生	2013年4月1日
立教女学院中学校	田部井 善郎	2016年4月1日
立教女学院高等学校	田部井 善郎	同上
立教女学院短期大学	若林 一美	2010年7月10日

## 6. 理事・監事

理事・監事の当年度末(2018年3月31日現在)における状況

理事・監事の区別	選任区分		定数	現員	氏名	常務理事	常勤・非常勤の別	任期
理事長					若林 一美		常勤	4年
院長					広田 勝一		非常勤	
理事 14人以上 17人以内 (現員16人)	1号	日本聖公会東京教区主教	1人	1人	欠員		非常勤	4年 (1～5号 除く)
	2号	院長	1人	1人	広田 勝一		非常勤	
	3号	学校の長 (幼稚園園長を除く)	3人又は 4人	3人	佐野 新生 田部井 善郎 若林 一美	○ ○	常勤 常勤 常勤	
	4号	事務局長・理事会選任	1人	1人	矢野 由美		常勤	
	5号	評議員互選・理事会選任	3人	3人	阿久津 小織 揚石 洋子 國廣 陽子		非常勤 非常勤 非常勤	
	6号	同窓会推薦・理事会選任	1人	1人	後藤 滋子		非常勤	
	7号	学外有識者・理事会選任	4～6人	6人	糸魚川 順 飯島 匡夫 元田 充隆 中林 三平 山中 一 養田 博	○	非常勤 非常勤 非常勤 非常勤 非常勤 非常勤	
監事2人 (現員2人)			2人	2人	小島 憲道 小瀬垣 利幸		非常勤 非常勤	4年

## 7. 評議員

評議員の当年度末(2018年3月31日現在)における状況

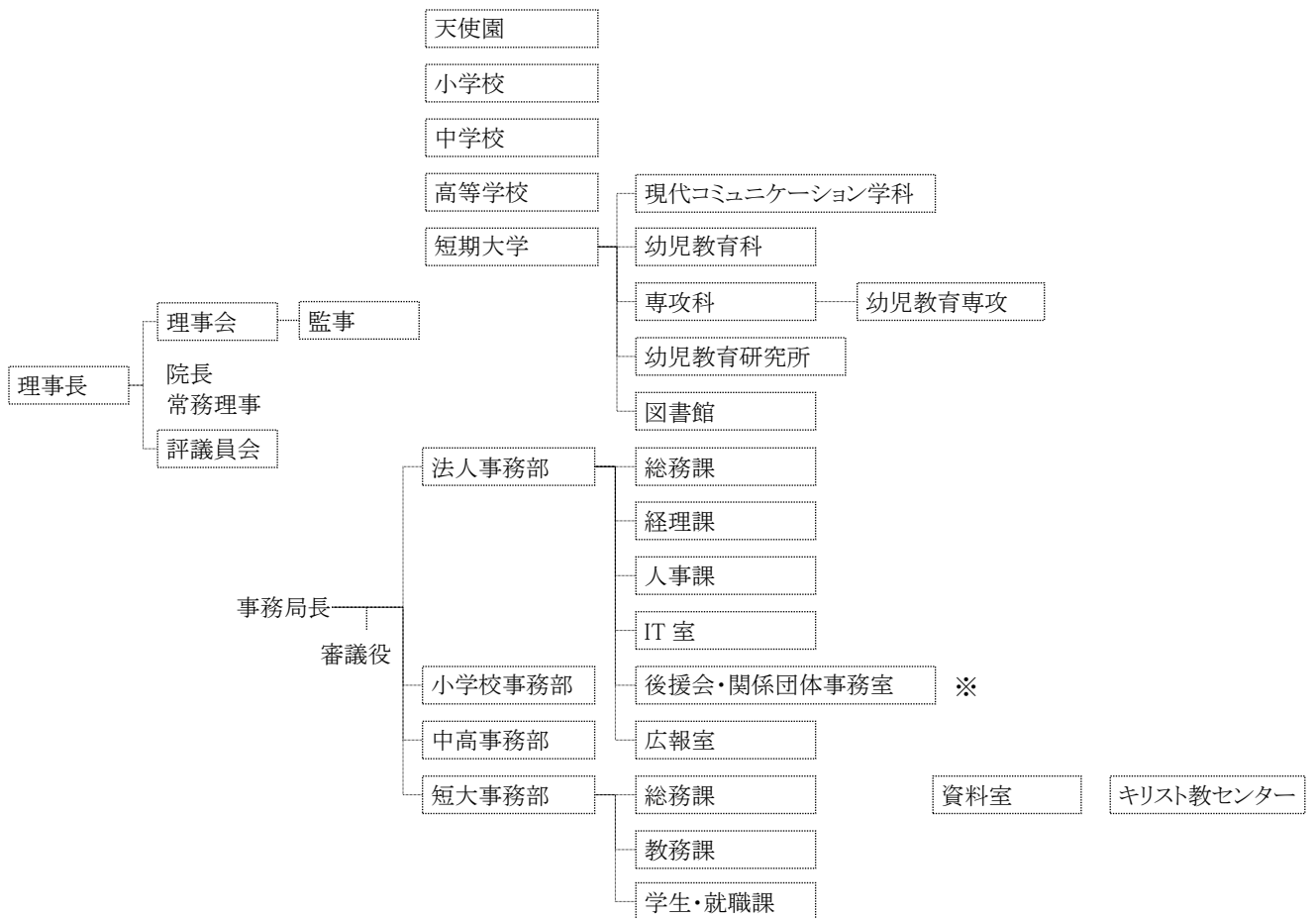
選任区分	定数	現員	氏名	任期
1号 理事のうちから	1人	1人	欠員	4年 (2～6号 除く)
2号 教区主教	1人	1人	欠員	
3号 院長	1人	1人	広田 勝一	
4号 学校の長及び事務局長	4人又は5人	5人	斎藤 英樹 佐野 新生 田部井 善郎 若林 一美 矢野 由美	
5号 教頭及び総務部長	4人	4人	吉田 太郎 山岸 悦子 鈴木 覚雄 萩原 滋	
6号 チャプレン	1人又は2人	1人	大森 明彦 鈴木 裕二	
7号 専任教職員互選	6人	6人	渡辺 明子 室本 悦子 佐々木 英子 有満 麻美子 毛利 みはる 八城 元	
8号 同窓会推薦	5人以上 8人以内	7人	後藤 滋子 渡瀬 美南子 岡本 恵美 柳澤 由紀子 野秋 啓子 佐々 義子 重松 れい子	
9号 学外有識者	6人又は7人	7人	揚石 洋子 光谷 和子 阿久津 小織 永濱 光弘 國廣 陽子 山倉文幸 川戸 れい子	

## 8. 会議

2017年4月1日～2018年3月31日の間

理事会		評議員会		常務理事会	
第503回	4月20日(木)			第01回	4月12日(水)
第504回	5月11日(木)			第02回	4月20日(木)
第505回	5月25日(木)	第334回	5月25日(木)	第03回	5月11日(木)
第506回	6月22日(木)			第04回	5月18日(水)
第507回	7月20日(木)			第05回	5月25日(木)
第508回	8月1日(火)	第335回	8月1日(木)	第06回	6月7日(水)
第509回	8月29日(火)			第07回	6月22日(木)
第510回	9月21日(木)			第08回	7月5日(水)
第511回	10月19日(木)			第09回	7月20日(水)
第512回	11月8日(水)			第10回	8月23日(水)
第513回	11月16日(木)			第11回	9月6日(水)
第514回	12月14日(木)	第336回	12月14日(木)	第12回	9月19日(火)
第515回	1月25日(木)			第13回	10月4日(水)
第516回	2月15日(木)			第14回	10月19日(木)
第517回	2月22日(木)			第15回	11月8日(水)
第518回	3月15日(木)			第16回	11月16日(水)
第519回	3月23日(木) ①	第337回	3月23日(木)	第17回	12月6日(水)
第520回	3月23日(木) ②			第18回	12月14日(木)
				第19回	1月15日(月)
				第20回	1月17日(水)
				第21回	1月25日(木)
				第22回	2月7日(水)
				第23回	2月15日(木)
				第24回	2月22日(木)
				第25回	3月13日(火)

9. 組織図 (2017年5月1日現在)



※2018年1月1日より「関係団体事務室」

## II. 事業の概要

### [基本政策方針]

主な事業計画

- (1) 教育・研究の質的向上
- (2) 教育環境の整備
- (3) 予算の有効活用・支出削減の努力
- (4) 収入増への取組み

### [事業の進捗状況]

#### i. 短期大学

短期大学は、2017年4月、本科最後の入学生を迎えた。「教育の質」と「学生支援の充実」を維持しつつ、できる限り最短の年度で短期大学が閉校できるように、2017年度は様々な課題を検討し、準備を進めた。基礎資料として「全員卒業に向けた課題一覧」(7月作成)及び「全員卒業に向けたスケジュール」(10月作成)をまとめ、適宜委員会や事務部などで検討を進めた。

また、2017年3月に英語科の最後の学生が卒業したことに伴い、2017年4月、「英語科廃止届」「専攻科英語専攻廃止届」を文部科学省に提出した。

#### 【2017年度の重点施策】

##### 1. 円滑な学校閉鎖に向けた教育体制の整備

###### (1) 教職員の短大方針の共通理解

- ・教職員は、学生が円滑に卒業するまでのプロセスを維持する責務を負っており、その協力と理解を得ながら業務を進めた。教職員に説明会を開催し、教職員の共通認識と同一の対応が取れる体制を整えた。

<教職員への説明>

- ・2017年7月26日 教授会 本科について基本的な考え方を説明
- ・2017年9月27日 教授会 専攻科について基本的な考え方を説明
- ・2017年12月6日 全体方針と今後の対応を説明(教職員に文書配布)

#### 【評価】

- ・教授会での説明、職員への説明会開催、資料配布を行ったことにより、学校閉鎖に向けた今後の具体的な方針や教育体制について、教職員の共通理解が図られた。

###### (2) 学生・保証人への支援体制の伝達

- ・学生・保証人に短大の方針を説明し、2019年3月卒業を目指して最大限の努力をしてほしいことなどを説明した。

###### ① 学長による学生への説明会

<1年生、幼児教育科2年生対象>

- ・幼教2年生：12月15日(金) 10時30分～10時40分
- ・幼教1年生：12月19日(火) 12時10分～12時20分
- ・現コミ1年生：12月20日(水) 12時10分～12時20分
- ・主な説明内容は次のとおり。

- 1) 授業を休まず受講し、試験・レポートを提出する。
- 2) 2017年度の必修科目や選択必修科目は、必ず単位を取得する。
- 3) 幼児教育科の2017年度の教職・保育士関係の科目は、必ず単位を取得する。
- 4) 疑問点や不安なことがあれば、アドバイザー、教員、職員、学生相談室を活用し、問題解決に努める。

###### ② 学科長による幼児教育科1年生への説明会

- ・2018年1月25日 学科長から卒業と幼稚園教諭二種免許状取得について説明。

###### ③ 保証人への文書送付

- ・2017年10月 保証人への学院刊行物送付時の送り状に授業出席などを喚起した。

(3) 最低修業年限で卒業・修了できる授業時間および履修の設定

- ・2017年度は、授業時間および履修制度を変更せず現行どおり対応した。
- ・2018年度履修状況と2018年度前期の単位取得状況に応じて、2018年度後期から特別対応の実施を検討することを決めた。

(4) 教育に必要な教員数の確保

- ・短大設置基準、教職課程・保育士課程の法令基準に則り、卒業および免許・資格取得に必要な科目を開講し、定められた専任教員を揃える必要があるため、2017年度は、その欠員状況に応じ、専任教員の採用や科目担当として非常勤教員を充てるなどの対応を行った。

(5) 資格取得に向けた例外対応の検討

- ・教職課程(幼稚園教諭二種免許状)は、2019年度から新課程に変更になるが、本学は2017年度入学生が最後の学生になるため、2019年度からの再課程認定の申請は行わなかった。

## 2. 円滑な学校閉鎖に向けた履修指導等授業関係サポート体制の整備

(1) 卒業・修了に向けたアドバイザー指導の徹底

- ・2018年度在籍予定の学生および保証人宛に、授業出席の喚起、大学の支援体制、家庭内での話し合いの依頼などを記載した学長発信の文書を、3月上旬に送付した。
- ・2月から3月にかけて、留学中の学生を含む2017年後期休学者並びに成績不良者の保証人宛に、アドバイザー面談を行うことを通知し、アドバイザーと教務課職員同席での面談を行った。また、必要に応じ保証人を含めた学長面談などを実施した。
- ・留年者・復学者については、2018年度オリエンテーション時に教務課が中心となって個別の履修指導を行うこととした。
- ・2018年度に休学する学生(留学含む)には、復学後、主に2019年度開講科目の目安とするために「復学後履修希望調査」を提出させた。

(2) 履修指導・授業出席管理等の事務サポート体制の整備

- ・「全員卒業に向けたスケジュール」を作成し、学生をサポートする日程や流れを確定した。
- ・必修科目の科目担当教員は、欠席が続く学生の情報を教務課に連絡し、教務課はアドバイザーに連絡するという流れを徹底し、授業出席情報を共有した。
- ・短大全学生の学籍・履修の状況などをまとめた「2017年4月在籍の全学生のリスト」を10月に作成し、後期成績が出た時点でリストを更新した。
- ・履修登録期間終了後、卒業要件に満たない学生を教務課に呼び出して履修指導を実施した。

【評価】

- ・休学、留学、学費延滞、単位取得状況を共通に把握でき、学長、教員、職員相互で情報共有を図ることができ、履修指導に有効に活用することができた。

## 3. 2018年度以降の学生サポート体制の準備と整備

(1) 就職内定率維持に向けた就職指導の実施

- ・2017年度は、前年度同様の就職関連講座を実施し、キャリアカウンセラー2名を引き続き雇用して学生の就職支援を行った。就職希望者178名の内、169名が内定を獲得し、就職率は94.9%(2016年度95.6%)となった。
- ・2018年度卒業予定者の就職サポートとして、学校推薦企業を中心に23社訪問し、企業人事担当者との連携強化に努めた。就職解禁となる3月には、学内企業説明会を前年より1日増やして4日間実施した(15社来校)。

(2) 学園祭など各行事のあり方検討

- ・2017年度は各行事とも例年どおり実施した。



- ・学園祭終了後、実行委員会が次年度の学園祭についてアンケートを行い、2018 年度も実施することを決めた。

#### 4. 授業、学生生活支援に必要な校舎・教室等の補修整備

- ・2017 年度は、203 教室屋根防水工事など必要最低限の補修・改修を実施した。
- ・2018 年度の校舎・教室・施設等の利用は 2017 年度と同じ対応とすることを決めた。

#### 5. 2018年度以降の短大運営体制の整備

(1) 短大事務組織の再編成(短大事務部の業務分掌の整備)

(2) 事務体制のフラット化(連携・協力体制の強化)

(3) 図書館、学生相談室、保健室、ラーニングサポートセンター、食堂等の附属施設のあり方検討

- ・この 3 点については、2017 年度は 2016 年度と大きな変更を行わず、法人本部とも適宜協議し、2018 年度以降の問題点の抽出を行った。

#### 6. 短大閉鎖後の卒業生サポート体制の検討と準備

- ・短大閉鎖後、短大卒業生に対して必要と思われるサポート内容とその体制を整理した。
  - 1) 閉鎖後の卒業生への就職・資格などサポートのあり方
  - 2) 閉鎖後の短大の成績証明書・卒業証明書等の発行業務
  - 3) 卒業生の学籍・成績などの保管・管理業務
  - 4) 短大に関する問合せに対応する総合的部署(担当)の体制

#### 7. 短大の開学50年の歴史や意義を残すための具体案の検討と準備

- ・短大創立 50 周年記念礼拝・クリスマス礼拝を 2017 年 12 月 13 日に行った。また、短大創立 50 周年記念品を在學生に配付した。
- ・「短大記念誌」「短大モニュメント」などの具体案を検討するため、2018 年度に短大に記念誌編集委員会を新設すること、及び、モニュメント、閉学後のホームページ、保存すべき短大史料についての検討を進めた。

#### 【評価】

- ・募集停止の理事会決定を受け、短大ではこの方針に沿うべく、学生に不利益を生じないよう最大限の努力と配慮をしながら、業務を遂行している。

## ii. 中学校・高等学校

### 1. 学校運営

2017 年度は、新しい学校運営のあり方を模索した一年であった。教育内容の多様化に応じて校務分掌も多岐にわたってきたこと、教員会を始めとする各種委員会の開催形態の検討、変化する大学入試制度を念頭にした担任の職務内容の見直しなど、いずれも 2018 年度以降継続して取り組むべき具体的な課題が明らかになった。財政については、学院全体の将来計画にも関わるものでもあり、次年度以降の継続課題となった。

### 2. 教育内容の充実

#### (1) 理数系授業の充実

理科教員を中心とし、以下のプログラムを実施した。

表 1 理科・高大連携・産学連携プログラム一覧

月	連携先	対象	内容
2017 4月	哺乳類の解剖講座	小学校希望者	豚の眼球解剖講座 高校3年生が小学生の解剖をサポートした。
6月	東京農工大学	高1・2希望者	本校の卒業生であり、工学部教授の清水美穂氏にご協力頂き、理系研究の魅力を伝えて頂いた。
	株式会社資生堂	高校全学年希望者	ジェンダー平等な社会を実現するために私たちができることをテーマに、高校生が資生堂に提言をする企画を実施した。
8月	東京工業大学	高1・2希望者	東京工業大学第2類の材料化学の研究室を訪問した。研究室の方々との交流会も実施し、東工大に通う卒業生も参加した。
	株式会社資生堂	高校全学年希望者	ジェンダー平等な社会を実現するために私たちができることをテーマに高校生が資生堂本社で提言を発表した。
9月	グーグル株式会社	中3希望者	Google社の「Mind the Gap」という情報工学の魅力を伝えるプログラムに参加した。
10月	株式会社資生堂	高校全学年希望者	ジェンダー平等な社会を実現するために私たちができることをテーマに国連大学で提言を発表した。
12月	株式会社WINNERS 富士川建材工業	高1希望者	左官体験をして、化学室横の壁を補修した。
2018 1月	リクルートホールディングス株式会社	高3希望者	経済産業省連携「第4次産業革命と社会人基礎力」
2月	EARTHRISE プロダクション	高1・2希望者	EARTHRISE 小畑星子氏講演＋進路相談会
	保育園で科学ショー	高3希望者	高校3年生が保育園で科学ショーを行い、園児に科学の面白さを伝える講座
3月	株式会社資生堂	高3希望者	資生堂ビューティーアップ講座
	日本マイクロソフト社	高1・2希望者	プログラミング講座
夏休み	理系化学・文系化学基礎 地学基礎センター対策	高3希望者	高3理系化学選択者および高3化学基礎・生物基礎の受験対策の夏期講習会を実施した。
冬休み	化学基礎補習	高3希望者	高3センター試験直前講習を行った。
後期	物理入試問題演習講座	高2希望者	大学入試センター問題レベルの入試問題演習を全7回で行った。

#### 【評価】

生徒に理数系等の授業に興味関心をもたせ、さらに大学や社会とのつながりの中で学習への意識を高めるため、東京工業大学をはじめとする大学の研究室訪問や Google、株式会社資生堂などと協働学習を実施した。また立教女学院小学校との連携教育を通じて、生徒が主体的能動的対話的に学び考える教育(アクティブラーニング教育)を実践した。

#### (2) 英語教育の充実

4技能について、実力テスト、長期休暇中課題、GTEC 及び TOEIC の実施、英検 2 次対策等に取り組んだ。

#### 【評価】

上記の取り組みを積極的に推進したことによって、生徒の 4 技能の向上がみられた。また、大学入試改革への早期対応ともなった。

(3) 国際理解教育の充実  
次の取組を実施した。

表2 国際理解教育プログラム一覧

プログラム名	形態	国名	人数	備考
長期留学受入れプログラム	受入れ	アメリカ	1名	9月2日～来日(約9ヶ月)。St. Stephen's Episcopal High School(SSES)
中期留学受入れプログラム	受入れ	フィリピン	1名	10月21日～31日。Trinity University of Asia High School
長期留学派遣プログラム	渡航	アメリカ	1名	(約9ヶ月)。SSES
		ニュージーランド	1名	(約8ヶ月)。SMC
		ニュージーランド	1名	(約8ヶ月)Queen Margaret College(QMC)
短期留学派遣プログラム	渡航	ニュージーランド	8名	QMC。応募者26名より選抜。出発前に生徒勉強会(3回)と保護者会(1回)を実施。
Youth Program ～UC Davis～	渡航	アメリカ	22名	8月5日～15日。カリフォルニア大学デービス校で生命科学などの最先端の研究に触れ、世界トップクラスの学びを体験。
エンパワーメントプログラム	受入れ	アメリカ、アジア諸国	58名 中3-39名 高1-16名 高2-3名	7月31日～8月4日。カリフォルニア大学の学生やアジアからの留学生を校内に招き、英語でディスカッションやミニプロジェクトを少人数グループ(生徒5-6人)で実施。
サマーイングリッシュプログラム	—	—	155名 中1-115名 中2-40名	8月1日～4日。外国人講師によるプログラム。
ユネスコスクール	渡航	カンボジア	1名	第4回高校生カンボジアスタディツアーに高2生徒1名が参加。帰国後、礼拝後の時間やマーガレット祭で体験報告。
SMIS 国際教育グループ	—	—	28名 中2-4名 中3-5名 高1-7名 高2-12名	世界の隣人とどのように手を取り合っていくことができるか。また平和を作り出す者へと成長するために、校外の団体とも協同し、具体的な活動を通して学ぶことを目的とした活動。 ・第1回全国高校教育模擬国連大会および中学生トライアル ・第11回全日本高校模擬国連大会 ・第4回玉川学園模擬国連会議

【評価】

中1から高2までのプログラムが構築されたことにより、各学年での生徒の成長を確認できるようになった。また生徒自身がお互いに刺激し合える状況となり、今後もさらなるプログラムの充実を図っていく。

(4) 平和教育の促進

中学生と高校生に平和提言の原稿を求め、応募作品の中から優秀作品を選び、『戦いのない時代にするために』～創立140周年記念 平和提言集～』を刊行した。

【評価】

上記のことを通じ、過去を記憶し、その責任を認識することによって、キリスト教学校として世界に向けて貢献できることを確認した。

(5) 教職員の質の向上

教職員の自己研鑽および新たな刺激を得ることにより、よりよい教育活動に反映できるよう、国内外への研修会や勉強会等に参加した。毎年8月に行っている教員研修会では、「電車内・乗降のマナーについて、及びスカート丈の指導について」をテーマに教職員でグループに別れて話し合いを行い、今後の生活指導についての共通理解を図り、指導についての具体策を練った。

【評価】

研修会等で問題意識を共有したことにより、機会があるごとに学年や学科の枠を越えて様々な問題について話し合うようになり、教員の意識の向上が見られた。今後も継続して資質向上に努める。

(6) 入試広報活動の強化

1) 公開行事実施報告

① ミニ学校説明会

5月17日 293名(259組) 5月24日 188名(168組) 7月5日 158名(145組)

・前年より説明会を1回増やし3回実施した。説明会の早期実施の重要性を実感できた。

② 学校体験日(St.Margaret's Learning day)7月1日

・時期が適当で授業の参加率は高かった。

・内容を3つ(礼拝体験/授業体験/部活動および個別相談)に分けて実施した。

③ 学校説明会(一般生・帰国生対象)

第1回:10月7日 853名(521組)

第2回:11月18日 456名(294組)

・昨年度比較で、総参加数は若干増加。

④ 生徒会による学校説明会 7月23日 754名(348組)

・今年で5回目の試みだったが、今回も大変好評であった。

⑤ 帰国生対象学校説明会 7月26日 145名(88組)

⑥ クリスマス礼拝 12月16日

・5・6年生対象予約制。250組、500名は早い時期に予約が一杯となった。

・立教女学院のキリスト教教育を理解するための有意義な行事となった。

⑦ 高3卒論発表会 3月11日

・参加者 受験生 194名(115組) 本学中3生徒 52名 本学保護者 27名 教育関係者 15名

・内容は、高3プレゼン2名、卒業生1名(社会人)、高3生によるミニ学校紹介

2) 塾対象説明会 5月24日

今年のトピックス「立教女学院の国際教育」

3) 塾主催学校説明会

例年どおり、本校を会場とし塾主催保護者対象説明会を実施した。

6月7日 サピックス 6月13日 市進 7月6日 四谷大塚 7月13日 栄光ゼミナール

4) 学外企画学校説明会

- |             |                           |
|-------------|---------------------------|
| ① 5月21日     | 東京私学中学校合同相談会 有楽町国際フォーラム   |
| ② 5月28日     | ベネッセ進学フェア 2017            |
| ③ 6月18日     | 声の教育社「受験なんでも相談会」新宿 NSビル   |
| ④ 6月25日     | 日能研学校フェア 2017 青山学院大学      |
| ⑤ 6月27日     | 日能研保護者対象 吉祥寺校             |
| ⑥ 7月4日      | ena 代々木校 帰国対象説明会          |
| ⑦ 10月31日    | 希学園 目黒校                   |
| ⑧ 7月29日     | 海外・帰国生進学相談会(JOBA) ベルサール汐留 |
| ⑨ 7月29日     | キリスト教学校フェア 銀座教会           |
| ⑩ 8月1日      | 帰国生のための相談会(海外子女教育振興財団)    |
| ⑪ 8月19日・20日 | 東京都私立学校展 2017 国際フォーラム     |
| ⑫ 9月6日      | 日能研保護者対象 明大前校             |
| ⑬ 11月8日     | スクールFC 吉祥寺校               |
| ⑭ 3月21日     | キリスト教学校合同フェア 青山学院高等部校舎    |

5) 2018年度入試結果

出願者数 一般入試 291名

帰国入試 82名

立教女学院小学校からの入学者 71名

【評価】

今回の入試は、大学入試改革による将来的不安から、大学附属校ブームと言われていた。実際に説明会や公開行事への来校者数は多く、一般入試では出願者数も増となった。また、一般入試、帰国入試ともに辞退者数は少なく、第1希望率の高い入試だった。

公開行事の回数を増やし、内容も学校の教育理念および教育方針や在校生の学校生活のようすを伝えられるように工夫を凝らしたことも、辞退者数の減少や出願者増に結びついていると考えられる。

3. 教育環境および施設設備等の充実

今後、校舎の改修が予定されているため、先送りできる工事は次年度以降に見送った。

### iii. 小学校

#### 1. 教育内容の充実

##### (1) 教学内容の充実、質的向上

- ・キリスト教に基づく教育を充実発展させる  
…ひとりひとりを大切にする、命を大切にする、個性尊重、お互いの違いを認め尊重する、基礎学力の充実、といった方向性を教職員間で共有し、具体的な教育の場面で生かす
- ・きめこまやかな児童対応、充実したわかりやすい授業
- ・自主的、主体的、能動的な授業態度を養う…Active Learning を意識した授業
- ・遅れ気味の子への補習活動
- ・環境教育・直接経験・体験活動の重視  
…茨城県常陸太田市、宮城県南三陸町でのスタディツアー、軽井沢キャンプ
- ・専門の見地からのアドバイスを得ながら的確な特別支援教育、障害者差別解消法対応…学校カウンセラーや外部専門家からの援助を受ける
- ・理数系教育の充実…高学年算数での指導体制の工夫、理科授業の充実、
- ・将来につながる実力養成としての、コミュニケーション能力・文章表現力、体力・生活技術・衣食住知識提供等の充実強化
- ・上記内容を実施するための教職員・指導スタッフの員数確保、適材適所を考えた人事配置、良質の教員を選考すること
- ・育児短時間教員の活用方策の工夫、総合的な教員配置計画の策定
- ・客観調査…学力テスト・知能テスト、全国学力・学習状況調査等を実施

##### 【評価】

- ・本校の教育理念、教育目的・教育方針、心がけるべき行動規範等上記内容を年度当初に全教職員で確認した。その後も教員会等折りあるごとに再確認し、理念に基づいた教育活動を実践するよう教職員に働きかけた。
- ・高学年算数や高学年理科の授業の TT 対応、高学年算数の補習活動にも積極的に取り組んだ。
- ・教育活動に関しては、どの学年もほぼ計画通りに進められ、概ね満足できる状況にあった。今後もさらに児童の主体的な学習意欲を促し、質の高い教育活動を提供できるよう、必要な改善を続ける努力を行う。

##### (2) 教育研究・研修活動の充実

- ・教学理念に基づき実践を行えるよう、きめ細かく教員に意識啓発、指導助言
- ・教員による主体的な授業研究、相互研鑽の活動を支援
- ・客観テスト結果を生かした児童対応や補習のあり方等、利用方法の工夫
- ・教員の力量向上のための研修活動の充実、教員相互の授業検討の機会確保、職能成長を意図した有識者からの指導助言、研修機会の確保
- ・特別支援対応…学院内外のカウンセラー、専門家の指導助言を教員が受ける
- ・専門性を有する識者からの指導助言をタイムリーに得てフィードバックする

##### 【評価】

- ・校長や各教員が実際の指導場面を相互に参観し、指導内容、指導方法、児童の実態等に関して、話し合い、アドバイスをし合う機会を設けることに努めた。教員の指導技術の向上や子どもたちへの丁寧な対応につながった。
- ・校務分掌内に置かれた「研究部」が、今年も教科毎に分かれて積極的に活動し、学校内での教員相互の授業参観やテーマを設けた研究活動を行った。毎学期 1 回以上は専任教員が集まったの授業研究が行われた。これらの活動は教員が相互に刺激し合いながら自らの職能成長に向けた努力を促す面で効果的であった。  
今後も教員としてのプロ意識を持って意欲的に職能成長につながる努力を行う姿勢を奨励する。

##### (3) グローバル教育の検討と諸々の取り組み

- ・Native 教員の活用
- ・英語教育カリキュラムの検討・改善

- ・各種英語関連プログラムの検討・実施
- ・国際交流事業の検討…立教英国学院での立教小学校のプログラム展開の視察

#### 【評価】

- ・従来は 3 年生からの授業としていたが、今年度から 1 年生にも英語の授業時間を設け、実施した。複数の Native 教員と日本人の英語担当教師とが積極的にディスカッションし、子どもたちにとって有意義な授業内容となるよう十分に吟味した上で授業を行い、授業後には反省点も踏まえながら毎時間の英語の授業を実施しており、各学年とも充実した内容の英語教育を実施することができた。
- ・欧米型のサマーキャンプ形式による良質の英語キャンプを提供する業者を紹介し、参加希望者への紹介を行った。(夏休みに国内で実施)。英語だけを使って生活する野外活動を中心にしたこのキャンプへの参加者ならびに保護者の満足度は高く、来年度もこの団体が主催するサマーキャンプへの紹介活動を継続する。
- ・海外への短期留学機会を提供するための検討も進めており、来年度には実現を目指している。

#### (4) 体育振興

- ・夏期休暇中のプール指導の改善。水泳専門の指導員を依頼
- ・体力作り・運動習慣の向上への取り組み

#### 【評価】

- ・外部の専門性のある水泳指導者による水泳指導を実施した。級別判定の基準を見直し、児童が自らの水泳の技量向上に向け、意欲的に取り組める仕組みとした。
- ・冬場には体育科教員と担任とが協力し、始業前のなわとびやマラソン等の活動を行った。児童の体力作りや運動習慣の育成に役立った。

## 2. 教育環境の充実

### (1) 増改築、メンテナンス

- ① Active Learning Room、English Learning Room 等の Wi-Fi 環境のメンテナンス
- ② iPad 利用をより円滑にするための利用方法の工夫、環境整備方針の検討
- ③ 聖マリア礼拝堂、児童玄関、食堂出入りロドアの不具合是正
- ④ その他校舎内外の不具合是正
- ⑤ 理科室および準備室の改善(プロジェクター・モニター更新、今後の改善に向けた調査・検討)

#### 【評価】

- ・上記①から④の内容に関して必要な範囲で実施した。食堂内のテーブルの補修を行った。⑤については継続検討項目とした。

### (2) 機器・備品

- ① 消費期限を超えている非常用備蓄食糧の入れ替え、備蓄物品の見直しと充実
- ② 国語、算数などのデジタル教科書等の教材ソフト検討・導入
- ③ 電子黒板等新規 ICT 機器導入に関する先行調査
- ④ 教員が利用する教材・校務関連プリント等のデジタルアーカイブ化
- ⑤ 聖マリア礼拝堂の照明の LED 化調査検討

#### 【評価】

- ・①については予定通り入れ替えを完了した。②～⑤については継続検討項目とした。

## 3. 入試関連広報体制の強化

- ① 学校案内パンフレットリニューアル
- ② 小学校ホームページリニューアル、スマートフォン対応
- ③ 学校紹介ビデオのリニューアル
- ④ 小学校の魅力を機会ある毎にしっかり打ち出していく

#### 【評価】

- ・全項目とも予定通り実施した。今後も学院・小学校の魅力を正しく伝える方策を検討し、実施する。

#### 4. その他 学院・小学校への信頼関係の強化・支援の振興

- ① 藤の会、その他保護者の学校支援諸活動への丁寧な対応…保護者との信頼関係を強固に
- ② 入学試験、転編入試験方法の改善、転出時の規定等内規の見直し
- ③ 児童に欠員が生じたときの対応方法の見直し

##### 【評価】

- ・児童に関する保護者との共通理解を深め、有意義な夏休みを迎えられるよう、1学期末に全保護者との面談を行った。新たな学年の最初の学期をどのように過ごしていたかを保護者と話し合う機会が得られ、夏休みの過ごし方にも生かせることは有意義であった。
- ・②、③については継続検討中である。

#### iv. 天使園

2018 年度からの天使園募集停止を受けて入園希望者獲得のための諸行事は中止したが、教育内容については従来の保育の質を維持し、立教女学院のビジョンに沿ったキリスト教保育に力を入れたきめ細やかな教育を実現した。

##### 1. 教育環境の充実

- ・専任の園長が着任し、専任教員 3 名、非常勤教員 1 名計 5 名体制で教育活動を行った。他に臨時補助職員 1 名。
- ・安全で安心な保育環境を整える。
- ・卒園記念品のマルチパネルを活用し、広場、テラスでの遊びの環境が充実した。
- ・園庭遊具の収納庫が設置されたことにより幼児が遊具の整理整頓を自発的にできるようになった。
- ・新しいパーテーションを利用した誕生会が行われた。

##### 【評価】

専任の園長のもと、教育活動が活発になり、環境も徐々に整備されてきた。

##### 2. 教育内容の充実

- ・キリスト教保育の充実  
毎火曜日の礼拝を通して、礼拝の厳かさ、神様に感謝すること、その表現を体感することができた。また、日常の保育にてイースターエッグで遊んだりしながらイースターの喜びを告げることができた。  
クリスマスには、園のクリスマス礼拝後、毎日の礼拝とお話によってイエスの心を学ぶことができた。
- ・少人数保育、チーム保育の充実  
多様な人間関係の中での人格形成のため異年齢児の交流を充実させた。  
教師が協働して子どもたち一人ひとりの発達の特性に応じた活動を促進した。

##### 【評価】

教職員会議が充実し、教員間での報告・連絡・相談がスムーズに行われ、キリスト教保育についての話し合いや園児および保護者への援助がよく行われた。

##### 3. 在園児保護者への子育て支援の実施

- ・シェフズランチ:食についての意識を高め、友達と一緒に食事をする喜びを体験した。家事負担軽減を図る。
- ・子育てセミナー:園の教員と共に現代社会の問題を認識し、子育てに必要な知識を得、視野を広げ、問題解決を実践する機会となった。

##### 【評価】

様々な方の協力により当初の目的を果たすことができた。

##### 4. 遊びを中心とした保育の充実

- ・遊びを通して人とかかわる喜びや自己を実現する喜び、他者との距離感を知ることができるように適切な環境の構成を行った。遊具を使って広場での子どもの自主的な遊びが展開できるよう整えた。

##### 【評価】

新保育要領にもうたわれている『遊び』が中心の本園では、すでに良い環境が整えられている。

##### 5. 保護者との連携

- ・保護者会を原則、月 1 回開き、園と保護者で子どもの育ちを支え合っている。
- ・おひさまルームをランチルームとして開放し保護者同士の交流の機会を作る。
- ・個人面談を行い、園と家庭での子どもの育ちを伝えあい支えあうとした。
- ・希望面談では保護者の気になることを相談する機会をもち、子どもの成長を共有する機会とした。必要に応じて教員から面談の声掛けをした。
- ・保育サポートを実施して園生活にふれ、子どもの育ちを感じながら保育への理解を深め、子どもの育ちを支える大人の接し方を考えていただいた。



- ・運動会、クリスマス礼拝、祝会などの園行事への手伝いを通してより緊密な信頼関係を築く機会とした。
- ・杉並区の「すぐメール」を登録し、引き続き活用した。

**【評価】**

例年に比べ、警報の発令が多く、また運動会が雨天のために順延されるごとに「すぐメール」が利用され助けられた。

保護者との関係も充実され、来年度の協力も得られている。

**6. 教育・研究面での連携の継続**

- ・短期大学授業との連携、協力を通し、教育環境の充実を図った。  
「保育研究セミナーⅡ」共生プロジェクトへの参加。「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の授業との連携を継続した。
- ・保育教育セミナーの学生による誕生会での保育実践を行った。
- ・短期大学学生による、天使園ボランティア登録制度を活用し、教材準備や環境整備を行った。
- ・幼児教育研究所紀要に『キリスト教保育を考える～本園の取り組みを通して～』を投稿した。

**【評価】**

紀要に投稿する目的もあったが、教員間でキリスト教保育について話し合い、考える機会が多かった。それがイースターやクリスマスの計画に反映された。

## v. 学院

### 1. 経営等の取組

- ・短期大学及び附属幼稚園天使園の 2018 年度からの募集停止を実施したが、引き続き学院の教育の質の維持向上に資する予算の執行を行った。
- ・寄付金募集について、行政等の指導も踏まえ、後援会を廃止し、2018 年 1 月から法人が主体となる取扱いとするよう体制を整備した。寄付方法も多様にし利便性の向上を図った。
- ・業務の効率化・合理化を図るため、委託契約の見直し作業に着手した。
- ・教学も含め経営に関する総合的な検討を引き続き行った。

### 2. キャンパスの整備

#### (1) 主な工事

- ・小学校空調設備改修工事 I 期
- ・小学校食堂給湯器更新工事

#### (2) 既存施設設備の整備

- ・グラウンド・テニスコート補修工事
- ・総合体育館サブアリーナエントランス拡張工事
- ・校宅跡地防草シート補修工事
- ・本学記念碑(築地)の補修・清掃
- ・高等学校校舎、講堂、聖マーガレット礼拝堂、マーガレットホール等の大型改修工事の基本設計業務開始

#### (3) 中長期施設設備計画の策定

施設の現況等に関する資料の作成及び今後の整備に関する検討作業を行った。

#### (4) キャンパス緑化整備

園児・児童・生徒・学生や周辺地域の安全及び環境整備の観点から、年間を通して緑地管理を行った。

### 3. ICT環境の整備

学院の基幹サーバーの更新・移設等、ICT 環境の整備を行った。

### 4. 安全対策

災害対策として、防災倉庫の増設、発電機等の追加配備とともに、防災食等防災備品の備蓄充実を行った。

### 5. 寄付及び関係団体からの支援

個人及び団体・法人から総額 1,435 万円強の寄付があった。うち、同窓会から 300 万円、シニア藤の会から 70 万円が寄付された。

藤の会から 総額 2,528 万円強の支援が各学校に対して行われた。

### 【評価】

寄付金募集事業については、新たな枠組みを整備したことから、今後は、学院への理解をいただきながら募集事業の充実を図ることが課題である。施設の整備について検討作業を鋭意継続して具体的なとりまとめをする必要がある。短大募集停止を踏まえた経営改善の取組の具体化が急務である。

### III. 財務の概要

<経年比較>

立教女学院(法人全体)事業活動収支推移

(単位 百万円)

年度		2015			2016			2017			
学生生徒等数		学生生徒等(2454)			学生生徒等(2365)			学生生徒等(2312)			
専任教員数 専任職員数		専任教員(113)専任職員(35)			専任教員(113)専任職員(34)			専任教員(112)専任職員(32)			
教育活動収入の部	科 目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	
	学生生徒等納付金	2,026	71.5%	△ 72	2,022	69.2%	△ 4	1,906	70.0%	△ 116	
	手数料	39	1.4%	△ 5	40	1.4%	1	30	1.1%	△ 10	
	寄付金	134	4.7%	0	150	5.1%	16	120	4.4%	△ 30	
	経常費等補助金	527	18.6%	8	554	19.0%	27	534	19.6%	△ 20	
	付随事業収入	54	1.9%	0	55	1.9%	1	54	2.0%	△ 1	
	雑収入	55	1.9%	△ 4	100	3.4%	45	77	2.8%	△ 23	
	教育活動収入計	2,835	100.0%	△ 73	2,920	100.0%	85	2,721	100.0%	△ 199	
	教育活動支出の部	科 目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		人件費	1,812	64.0%	83	1,855	66.1%	43	1,758	68.2%	△ 97
		教育研究経費	730	25.8%	30	672	23.9%	△ 58	573	22.2%	△ 99
		経常経費	420	14.8%	24	382	13.6%	△ 38	350	13.6%	△ 32
		減価償却額	310	10.9%	6	290	10.3%	△ 20	223	8.7%	△ 67
		管理経費	291	10.3%	9	276	9.8%	△ 15	246	9.5%	△ 30
経常経費		276	9.7%	9	254	9.1%	△ 22	224	8.7%	△ 30	
恩給・扶助料		0	0.0%	0	5	0.2%	5	5	0.2%	0	
減価償却額		16	0.6%	2	17	0.6%	1	17	0.7%	0	
徴収不能額等		0	0.0%	0	3	0.1%	3	1	0.0%	△ 2	
教育活動支出計	2,833	100.0%	122	2,806	100.0%	△ 27	2,577	100.0%	△ 229		
教育活動収支差額	2		△ 195	114		112	144		30		
教育活動外収入の部	科 目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	
	受取利息・配当金	40	100.0%	5	41	100.0%	1	39	100.0%	△ 2	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	
	教育活動外収入計	40	100.0%	5	41	100.0%	1	39	100.0%	△ 2	
	教育活動外支出の部	科 目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		借入金等利息	15	100.0%	△ 3	12	100.0%	△ 3	9	100.0%	△ 3
その他の教育活動外支出		0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	
教育活動外支出計		15	100.0%	△ 3	12	100.0%	△ 3	9	100.0%	△ 3	
教育活動外収支差額	25		8	29		4	30		1		
経常収支差額	27		△ 186	144		117	174		30		
特別収支	科 目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	
	資産売却差額	0	0.0%	0	0	0.0%	0	255	96.6%	255	
	その他の特別収入	22	100.0%	△ 25	94	100.0%	72	10	3.8%	△ 84	
	特別収入計	22	100.0%	△ 25	94	100.0%	72	264	100.0%	170	
	科 目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	
	資産処分差額	3	100.0%	△ 7	3	100.0%	0	26	83.9%	23	
その他の特別支出	0	0.0%	0	0	0.0%	0	4	12.9%	4		
特別支出計	3	100.0%	△ 7	3	100.0%	0	31	100.0%	28		
特別収支差額	19		△ 17	91		72	234		143		
予備費	0		0	0		0	0		0		
基本金組入前当年度収支差額	46		△ 204	235		189	407		172		
基本金組入額合計	△393		102	△226		167	△135		91		
当年度収支差額	△347		△ 305	10		357	272		262		
前年度繰越収支差額	△1,205		△ 41	△1,552		△ 347	△1,543		9		
基本金取崩額	0		0	0		0	0		0		
翌年度繰越収支差額	△1,552		△ 347	△1,543		9	△1,271		272		
事業活動収入計	2,897		△ 93	3,055		158	3,024		△ 31		
事業活動支出計	2,851		111	2,820		△ 31	2,617		△ 203		
基本金組入後収支比率	113.9%			99.7%			90.6%				
学生生徒等納付金比率	70.5%			68.3%			69.1%				
人件費依存率	89.4%			91.7%			92.2%				

\* 基本金組入後収支比率=事業活動支出÷(事業活動収入-基本金組入額)

学生生徒等納付金比率=学生生徒等納付金÷経常収入

人件費依存率=人件費÷学生生徒等納付金